図書館だより10月号

令和5年10月30日
万代高校図書館

今年のノーベル文学賞は、ノルウェーの詩人で作家のヨン・フオッセ氏が受賞しました。その作品の多くが日本語訳で出版されてはおらず残念ですが、翻訳作業が進んでいるようなので、私たちが読めるようになる日を楽しみに待ちたいと思います。

このおたよりでも度々書いていますが、日本では町の本屋さんがどんどん減っています。しかし近年、ニューヨークでは書店が増加傾向にあるそうです。10代、20代の若者の「紙の本」への関心も高まっているとのこと。アナログレコード、フィルムカメラを愛好する若者たちも増えているということで、私はこの現象を大歓迎しつつ、全世界に広まることを期待しています。

デジタルは大変便利ですが、本にしても音楽にしても写真にしても、少し前はデータではなく、手に取ることができるカタチと手触りがありました。物としての存在感に安心を感じていた気がします。「昔はよかった」と言っているばかりでは進歩がありませんが、確かな手触りはなくなって欲しくないものです。

「情報」だけで終わらない、手に取れる体験としての読書を楽しむのに絶好の季節です。温かい飲み物と一緒に、お気に入りの一冊を楽しんでみてはいかがでしょう。手応え、読み応えのある本を用意して、図書館でお待ちしています。

図書館司書　　楠

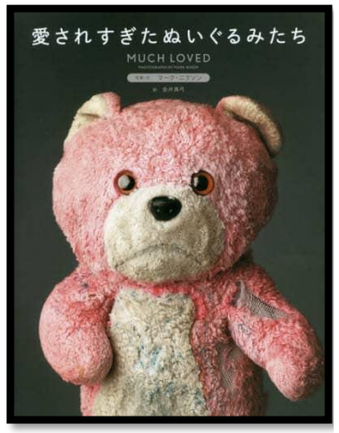
千の扉あけて　第26章

本の表紙を開いて最初に現れる、タイトルの書かれたページのことを「扉(とびら)」と呼びます。本を開くことは、いろんな世界、いろんな物語、いろんな知識へとつながる扉を開くこと。これから皆さんを、無数にある扉のひとつへとご案内します。それをあけるかどうかは、あなた次第。ですが一冊の本の世界を旅した時、きっとそれ以前とは変わっている自分に気づくでしょう。今回の「扉」は…

『愛されすぎたぬいぐるみたち』

マーク・ニクソン　著
オークラ出版

759
ニ



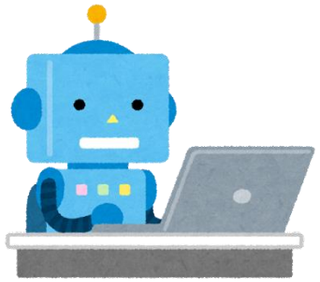
「手触りで安心するもの」の代表といえば、ぬいぐるみではないでしょうか。子ども時代に、一度もぬいぐるみを触らずに大きくなった人は少ないでしょう。成長した皆さんの部屋にも、一つくらいはぬいぐるみがあるのでは？

今回ご紹介するこの本は、タイトル通り愛されすぎてボロボロになってしまったぬいぐるみたちの写真集です。

ホラー風味を感じるくらいに傷んでしまったぬいぐるみも、持ち主にとっては、かわりのいない大切な友達。それぞれの持ち主が語るエピソードを読みながら写真を眺めると、ぬいぐるみをギュッとしたときの気持ちが思い出されます。丁寧に作られたぬいぐるみは100年後も壊れずに、親から子へ、子から孫へと受け継がれるものもあるそうです。この本に登場するぬいぐるみたちも、大切にされたがゆえにボロボロな姿ですが、どこか嬉しそうで、誇らしそうな表情に見えます。

この本を読むと、しばらく触らずにいたぬいぐるみを、もう一度ギュッとしたくなってしまうかもしれません。寒さに向かうこの季節に、おすすめの一冊です。

それではまた、次の扉でお会いしましょう！



PICK UP！
“AI”を考える本

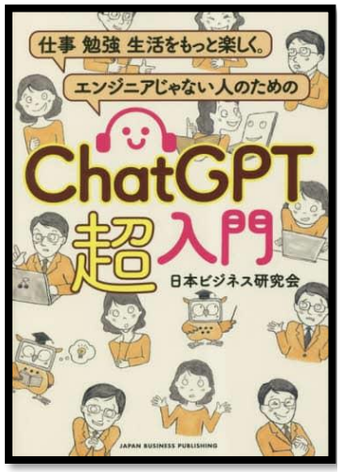
ちょっと久しぶりに、映画を観てきました。「ザ・クリエイター 創造者」という、人類と AI の対立を描いた SF 作品です。少し前は空想の物語でしかなかったようなことも現実味を帯びてきている現代、機械や人工知能との付き合い方を考えるきっかけになる本を集めてみました。

『アイの物語』　山本弘　著　913 ヤ　KADOKAWA

人類が衰退した未来。主人公の僕は、食糧を盗んで逃げる途中、美しい女性型のアンドロイドと戦い、捕らえられる。アイビスと名乗るそのアンドロイドは、負傷した僕に「人工知能を題材にした６つの物語」を毎日読んで聞かせた…。

主人公と一緒に、アイビスの語るお話に耳を傾けてみてください。人間と人工知能の新しい関係に希望が持てる、美しい物語です。

『ChatGPT超入門』　日本ビジネス研究会　著　007　ニ　日本ビジネス出版

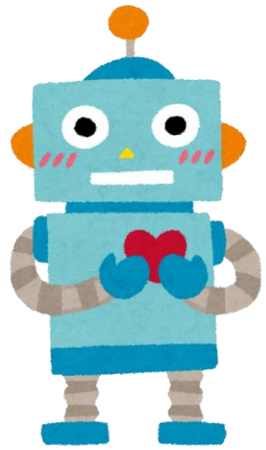


「ChatGPT」という言葉を聞かない日がないくらい、私たちの生活にすっかり入り込んでいるチャットボットと呼ばれるプログラム。

生徒の皆さんには「今さら？」と言われそうな気もしますが、私はこの本で“何となく”分かった感じになれました。使ってみると面白いですね。

そもそも「ChatGPT とは何ですか？」から始まり、「どんなことができるの？」「どうやって使うの？」という基本的な疑問が Q&A で読める、エンジニアじゃない人のための易しい入門書です。

『〈弱いロボット〉の思考』　岡田美智男　著　548　オ　講談社

ファミリーレストランでロボットが料理を運ぶ光景は見慣れたものとなりました。私たちの暮らしに溶け込みつつあるロボットたちですが、この本では「自分でゴミを拾えないゴミ箱ロボ」や「オドオド話す会話ロボ」など、ある意味“不完全”なものたちを題材に、コミュニケーションのあり方や、人間と機械との持ちつ持たれつの関係を論じています。

気になるものがあったら借りてみてください！　リクエストもどうぞ。
好きな本の話や、質問・相談など、いつでも待っています！